

多摩森林科学園

多摩森林科学園長 三輪 雄四郎

多摩森林科学園は、1921年2月、宮内省皇室林野管理局林業試験場として発足しました。場所は東京都八王子市にあり、動植物の豊富な高尾山系の端に位置しています。

57haの敷地内の試験林、樹木園、サクラ保存林を活用して、森林環境教育の場における動植物の多様性保全・生態系の役割解明に関する研究を行うとともに、広く一般の人たちに開放し、森林総合研究所の研究成果の普及広報を行っています。

試験林は約40haあり、モミやスダジイ・アラカシなどの暖帯林の常緑樹が優占する天然林が残されており、また林業試験場発足以前の明治時代末からいろいろな樹種の見本林として設定され、ホウノキ、ケヤキなどの国内産46樹種、テーダマツ、ユリノキなどの外国産26樹種の林が見られます。約7haの樹木園には国内産樹木406種、外国産樹木170種、垂種変種も数えると615種の樹木が植えられ、我が国有数の樹木園となっています。また、1966年から設置された約8haのサクラ保存林には、江戸時代から伝わる栽培品種や国の天然記念物に指定されたサクラのクローンなど全国各地から多くの種類のサクラ1,700本が植栽されています。樹木園、サクラ保存林は通年一般公開され、特にサクラの時期には多くの人たちに喜ばれています。



多摩森林科学園での研究はサクラ保存林や樹木園など管理された林や40haという限られた面積ではありますが、自然状態が保たれ豊富な動植物が生存する試験林において、サクラなどの樹木の開花時期に影響を与える因子の解析、サクラのクローンなどの分類、希少樹種の遺伝的多様性、スギ花粉の生産量と飛散量予測、鳥類によるサクラ虫害の防除、国外からの移入鳥類による生態系への影響、ニホンリスの補食行動及び管理地域でのコリドー（生態的回廊）の利用実態、サクラ害虫コスカシバに対するフェロモンを利用した防除、昆虫を用いた都市近郊林の環境評価、土壌動物に利用した家畜排泄物の堆肥化などの研究が行われています。さらに、森林に期待される役割が変化していく中で、森林の教育的資源としての利用を推進するために、環境教育の場としての森林の動植物の生態的特性の解明及び効果的な環境教育を行うための指針づくり等の研究を進めています。

当科学園の付属試験地である多摩試験地は明治天皇の御猟場から1919年農商務省鳥類実験場として発足しました。回りを住宅に囲まれた5haという小さな試験地ですが、都市近郊林の鳥類相及び生物相の研究調査、都市林の機能の研究を行っています。さらに地域の小・中学生や市民の森林学習の場として資料を提供しています。

